

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会  
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半田 晴久  
環境技術委員長 坂本 忠彦  
専務理事兼事務局長 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第323回)

日時 平成28年3月17日(木) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第6会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第6会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、『環境技術関連ニュース NO.148』

解説 中島稔科学技術部会長

3、光触媒による水分解・水素製造とCO<sub>2</sub>還元技術

解説 工藤昭彦・東京理科大学理学部教授

報告 去る2月18日開催の第322回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して、お話がありました。COP21で新たなCO<sub>2</sub>削減目標が決められたが、海外メディアを見ると、日本だけが石炭火力発電所を増やしているということで批判的な論調を目にすることがあった。しかし、日本の石炭発電所は温室効果ガスを出さず、かつ高効率の最先端である。

次に、明治大学農学部農芸化学科専任講師の小山内崇先生より「光

合成微細藻類によるバイオエネルギー・バイオマテリアル生産」について、以下の主旨の解説がありました。

バイオマス資源は、パームや大豆、トウモロコシ、サトウキビなどの第1世代、人が食べない植物や都市ゴミなどを使う第2世代を経て、現在は微細藻類を中心とした第3世代の研究へと進んでいる。油脂生産量で比較すると、生産量の最も大きいパーム油が5,950ℓ(1ha1年当り)なのに対して、微細藻類はなんと136,900ℓと、約23倍もの生産量が得られる。そのため世界の巨大企業がこの分野の研究を進めている。そこで先生のグループでは、「転写を利用した代謝工学」という誰も手をつけていない手法を使って生産効率化に取り組んでいる。主として利用しているのはラン藻と呼ばれる細菌で、すでに、RNAポリメラーゼ(SigE)を使用してPHB(ポリヒドロキシ酪酸)や水素の生産量を2倍以上にするなど成果を出している。今後は、より付加価値の高い生産物をつくる研究を進めて事業化につなげたい考えだ。

次に、中島稔新エネルギー技術委員長より『環境技術関連ニュースNo.147(1)(2)』の解説がありました。○原料ガスから効率的にCO<sub>2</sub>を分離する膜技術を開発し、2017年に実用化。○光触媒でCO<sub>2</sub>から化学原料であるCOをつくる技術を開発。○太陽の活動から気候変動を予測。「温暖化の原因はガス」に一石。○炭素繊維を大量に低コストで作れる技術を開発。○プラチナの代わりに銀を使ったディーゼル車用の浄化フィルターを開発。触媒の費用が2割減に。○汽水域の水辺の景観向上や生物多様性の保全のために植生浮島を開発。多彩な動植物の生息と耐久性を確認した。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

**★当日会費千円にご協力お願い申し上げます。**

次回、3月17日(木)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。  
新規参加希望者は、予め履歴書をご提出ください。

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [shigeta@jidaisassin.jp](mailto:shigeta@jidaisassin.jp)